

基本情報

施設名	横浜市公田保育園
所在地	横浜市栄区公田町 740
電話番号	045-892-1530
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成 30 年 6 月 18 日～ 平成 30 年 11 月 15 日	読み合わせをしながら討議。
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成 30 年 12 月 12 日 平成 30 年 12 月 14 日	評価調査者 2 名が、2 日間を通し、保育園内の視察、保育内容、園児の観察、書類確認および園長、職員との面接、ヒアリングにより評価を行った。乳児、幼児の食事の観察を行い、保育環境、子どもの遊びの様子および延長保育の観察を実施しました。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成 30 年 10 月 16 日～ 平成 30 年 11 月 15 日	家庭ごとに配付。直接ポストに投函を依頼。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成 30 年 9 月 12 日 平成 30 年 9 月 13 日	1 歳～5 歳児対象に 1 日の生活を通して観察を行い、園生活、食事、遊び等を場面観察から考察をまとめました。

第三者評価結果報告書

《総括》

対象事業所名	横浜市公田保育園
経営主体(法人等)	横浜市
対象サービス	保育所
事業所住所等	横浜市栄区公田町 740
設立年月日	昭和 44 年 6 月
評価実施期間	平成 30 年 6 月（契約）～平成 31 年 2 月（報告書草案提出日）
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

《総合評価》

【横浜市公田保育園の立地・概要】

●横浜市公田保育園は、JR大船駅またはJR本郷台駅から公田団地行バスにて約10分、終点の公田団地（昭和44年に建設された集合住宅）で下車し、徒歩3分程度、階段を上った公田団地内の一角に位置しています。園舎は、鉄筋コンクリート作りの平屋建てで、園庭からは高台の立地により空気が澄み渡り、眺望も素晴らしく、晴れた日には栄区内、鎌倉市も一望でき、開放感溢れる環境にあります。園庭には滑り台やブランコ、ジャングルジム、鉄棒等の固定遊具と砂場を設け、周囲には四季折々の樹木が植栽され、景観を整えています。

●昭和 44 年 6 月 1 日に横浜市立公田保育園として開設され、50 年目を迎えた保育園です。各定員は、1 歳児（ひよこ）と 2 歳児（うさぎ）の定員 21 名、3 歳児（りす）は 14 名、4 歳児（ぼんだ）と 5 歳児（きりん）では 34 名とし、全定員数は 69 名（入所可能数 75 名）の小規模で園営を行っています。園では、子どもの意欲や興味を大切に保育を推進し、園目標に、「まわりの思いを感じながら自分をおもいっきり表現できる子」を掲げ、自主的な活動を中心に保育にあたっています。また、豊かな自然環境を生かし、自然に触れる体験を活動に取り入れ、子どもの育成・保育に積極的に取り組んでいます。

【横浜市公田保育園の方針】

●横浜市公田保育園の理念は、「子どもたちの健やかな成長と幸せをねがって～すべての子どもたちが、自分を「かけがえのない存在」と感じ、自信を持って生きていかれるように～」とし、このフレーズの中に公田保育の保育方針、保育姿勢が凝縮されています。横浜市公田保育園では、職員全員で考えた理念を大切に、共有しています。また、理念に基づく園目標や保育姿勢、保育方針の中には、子どもの自己肯定感、大人も子どもも安心できる基地、子ども一人ひとりへの対応等の意味・想いが込められ、職員の取り組む姿勢が表れています。子どもの人権、ムーブメント等、新しい手法の活用と併せて子ども一人ひとりに向き合う保育が横浜市公田保育園の保育です。

《優れている点》

1. 【理念の再検討】

●保育園の理念では特に、公立保育園の理念は基本的に保育のあるべき姿を全て網羅して示されていますが、横浜市公田保育園では昨年、「理念は具体的に何を示しているのか」を全職員でKJ法を用いて話し合い、「取り組みたい姿」が見えてきたことが「理念」を見直し、職員間で共有する一助となり、全職員で理念に正面から取り組む姿勢こそ、子ども一人ひとりに向き合う保育につながっています。

2. 【ムーブメント活動の推進】

●栄区では、ムーブメントを保育の1つの柱として推進しています。ムーブメント活動は、子どもの自主性、自発性を尊重し、子ども自身が遊具、場とし、音楽等の環境を活用しながら動くことを学び、動きを通して「からだ（動くこと）」と「あたま（考えること）」と「こころ（感じること）」の行動全体に関わる調和のとれた発達を促す働きがあります。ムーブメントには教具がありますが、使い方は自由であり、子どもの自由な発想を引き出しながら、自由な表現で心身を開放し、スカーフ（大小）やビーンズバック、パラシュート、ユランコ、ゴムバンド、カラーロープ、形板、スペースマット等の教具を使い、自由で楽しい体験を重ねています。教具は栄区で購入し、栄区の公立保育園で展開できるよう推進し、栄区保育園教育の1つとして力を入れています。指導は鎌倉女子大学の講師も当たっています。

3. 【食育の推進】

●横浜市公田保育園の広い園庭の裏に畑を設け、ブランターでは小松菜、ほうれん草等、野菜を栽培しています。園独自の厨房には区の調理職員を配置し、食育に力を入れています。特に、給食の味付けでは食材の素材を生かすために薄味にし、さらに出し汁でしっかりした味に補っています。食育活動では、子どもと一緒に野菜を育て、収穫を体験し、収穫した野菜は調理してみんなと一緒に食事することで食に興味を持ち、好き嫌いや野菜の苦手意識の軽減につながっています。継続して恵まれた環境を生かし、子どもが楽しんで食育活動に取り組み、家庭でも行える食育につなげ、食生活の多様化に伴う栄養の偏り、食料自給率の低下（野菜の栽培等の啓発）も考慮し、食に対する環境作りの取り組みに期待されます。

《さらなる期待がされる点》

1. 【地域高齢者との交流】

●横浜市公田保育園の立地は栄区の南方、丘陵の頂上に建立された公営団地の中に位置しています。団地が華やかな頃には子どもも多く、活気ある状況でしたが、年月を経て現在は高齢化が進んでいます。また、周囲には民家がないため、団地と保育園のみのコミュニティともなっています。横浜市公田保育園では団地内のシルバークラブと交流の機会を設け、園全体、子どもたちが団地のお年寄りと親しく交流しています。地域の交流はこの点を中心となるため、公田保育園が、子どもたちが高齢者の生きがいの一助となり、支援していかれることを願っています。

2. 【地域、子育て拠点との連携】

●横浜市公田保育園の地理的な環境を踏まえ、子育て支援事業の推進を図るには子育て親子の集客が難しい点が挙げられます。園として育児支援、育児講座、ランチ交流等、子育て中の親子のニーズに合致したテーマで提供していますが、周辺に子どもがほぼいないという点で苦慮しています。横浜市では各区に子育て支援拠点が設置され始め、栄区では子育て支援拠点に「にこりんく」が設けられています。今後、「にこりんく」と共催で連携を図り、“公田保育園の眺望の良い園庭であそぼう”等、近年得られない貴重な開放感ある園の特徴を生かし、保育園を見学する機会の提供や、映像化のPR等、子育て支援を進めていく検討を図り、また、逆発想で保育園に「来てもらう」から、子育て支援拠点を活用して視野を広げて貢献し、地域の子育て親子の支援に取り組む等、柔軟な視点での成果を期待しています。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

第三者評価受審施設	横浜市公田保育園
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

<評価領域>

I	利用者本人（子ども本人）の尊重	II	サービスの実施内容	III	地域支援機能
IV	開かれた運営	V	人材育成・援助技術の向上	VI	経営管理

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類 1 - 1	保育方針の共通理解と保育計画等の作成
評価	

評価の理由（コメント）

● 保育理念、保育方針は、子どもの人権や自立への援助と共に子ども本人を尊重した内容になっています。保育理念は、「子どもたちの健やかな成長と幸せをねがって～全ての子どもたちが自分をかけがえのない存在と感じ、自信をもって生きていかれるように～」と謳い、愛情を持って日々理念に沿った保育を実践しています。保育目標については、「まわりの思いを感じながら自分をおもいきり表現できる子」を掲げています。理念、保育目標に沿い、保育姿勢として、「子どものありのままの姿を受け入れます」、「子どもが安心してゆだねられるような存在になります」、「大事にされていると実感できるよう子どもの発する声を聴きます」、「色々な経験を通して豊かな感情が生まれるように援助します」、「満足感や達成感がさらなる意欲につながるような環境を作ります」を定め、全職員共通理解の基、保育にあたっています。保育理念、基本方針の理解については、「ほいくえんのしおり」に示し、園目標・保育方針・保育姿勢を事務室、園内に掲示し、保護者の目の付くところに示して理解を促しています。

● 全体的な計画は、基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一に、全職員で話し合いの上、作成しています。

全体的な計画は、保育理念、子どもの最善の利益を第一にして、年齢別に発達過程、ねらい（養護・教育）、食育、保育士の配慮の分野ごとに計画を立案し、理念に基づいた全体構成が成されています。また、懇談会や保護者アンケートを通して要望等を把握し、地域の状況を反映させて作成しています。

● 年間指導計画は、入園、進級時の子どもの様子を観察し、4月下旬に全職員よるカリキュラム会議で、全体的な計画に沿ってクラス別にクラス目標、クラス保育姿勢を作成しています。月間指導計画は、カリキュラム会議、乳・幼児会議で検討を行い、見直しについては各クラスの反省に加え、園長・主任、他の

クラス担任の意見等を取り入れて改善点の見直しを図り、子どもの自主性が発揮できるように作成しています。

●園では、日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取るよう心がけ、会話ができる子どもからは直接聞き取り、製作等の素材選びや散歩の行き先等、子どもの意見を尊重して決めるようにしています。乳児については、表情や態度から推し量りながら対応しています。

評価分類 1 - 2

子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施

評価



評価の理由（コメント）

●入園説明会では、保護者に面談票「入所事前聞き取り票」を記入してもらい、個別に面談を行っています。これを基に子どもの様子や家庭の状況の聞き取りを行い、説明会時に子どもが遊んでいる様子を観察し、受け入れの際の情報として職員で共通認識を図っています。食物アレルギーや健康に配慮が必要な子どもについては、面談時に情報を共有し、全職員で対応について確認しています。

●新入園児受け入れに際して短縮保育を行い、平均3日～5日間程度とし、保護者の勤労状況と子どもの様子に合わせて日程を決めて対応しています。特に、1歳児については職員配置、職員の役割分担の体制を構築し、環境に馴染み、安心して過ごせるよう配慮しています。保護者とは密に連携を図り、連絡帳で子どもの様子を伝え、送迎時にも口頭で伝えています。在園児への配慮では、カリキュラムの構成を工夫し、職員間の連携、協力体制を整え、新入園児に「お兄さん、お姉さん」として紹介し、憧れや年上として自覚と意欲が持てるよう対応しています。

●個別指導計画は、子どもの発達状況に応じて計画を作成しています。年間指導計画を生かし、月間指導計画、週案は他のクラスや全体と調整し、話し合いながら作成しています。また、状況に応じて計画の変更を行う等、柔軟に対応しています。改定では、毎月のカリキュラム会議で振り返り、乳児会議、幼児会議で職員の意見を出し合い計画に生かしています。行事のアンケート、個人面談、懇談会、意見箱を通して保護者の意見を抽出し、反映させるようにしています。指導計画および改定については、保護者の同意も得ています。

評価分類 1 - 3

快適な施設環境の確保

評価



評価の理由（コメント）

●施設環境については、毎日、職員の当番制により室内外の安全点検を行い、園舎、園庭を確認しています。また、保育室、トイレ、廊下等、マニュアルに沿って掃除および清掃を実施し、園舎を清潔に保っています。また、保育室に加湿器、空気清浄機を設置し、室内の温・湿度管理を行い、日誌に記録しています。園舎は高台に位置し、素晴らしい眺望であり、保育室は南向きに設けられ、採光は良好であり、毎日新鮮な空気を取り入れ、通気、換気に配慮しています。日差しの強い季節は、遮光ネットを設置しています。

●横浜市公田保育園では0歳児保育は実施していないため沐浴設備はありませんが、乳幼児用トイレに温水シャワーを設備し、汗・汚れの処理等を行い、体の清潔を保っています。毎日、マニュアルに沿って清掃点検を実施し、併せて水回りの清掃点検と衛生管理を行っています。保育の音楽や声等に関しては、職員間で気付いたことを伝え合い、声の大きさ、トーンにも十分に配慮し、子どもたちにも声の大きさに注意を促すようにしています。

評価分類 1 - 4

一人ひとりの子どもに個別に対応する努力

評価



評価の理由（コメント）

●個別指導計画では、子どもの一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定して策定しています。乳児では、毎月個別指導計画を作成し、前月の反省と今月のねらい、援助内容を記載し、個々の発達状況に合わせて柔軟に見直し、変更を行っています。見直し、変更の際は、担任だけでなく他の職員の視点も生かし、柔軟に変更、見直しを行い、細やかに共有し、保育に生かしています。配慮が必要な子どもについては、カリキュラム会議、ミーティング等で情報を共有し、職員間で共通理解を図っています。保護者とは日々の保育状況を伝え、連携を図りながら共有し、必要に応じて相談を行い、意見や要望を聞いています。また、よこはま港南地域療育センターの相談機能も活用し、園内で相談内容の共有を図り、指導計画に反映して保育に生かしています。食物アレルギーの対応では、園長または主任、担任、調理職員、保護者と面談を実施して確認を行い、個人記録に記載して対応しています。

●子どもの発達過程に応じた記録では、児童票・経過記録・健康台帳の他、園独自の個別面談票に記録しています。全園児の個人経過記録は、年間を2期に分けて記録し、配慮を要する子どもの記録は個別指導計画と個別日誌に記録して共有しています。年度末引き継ぎ事項記録「引き継ぎ書」では、担任間の確認

時間を設け、伝達漏れのないよう引き継いでいます。転出、転入、就学の場合は保育要録の引き継ぎや面談を行って対応しています。

評価分類 1 - 5

保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み

評価



評価の理由（コメント）

●横浜市公田保育園は、配慮を要する子どもの受け入れを行っています。個別ケースに関しては、職員会議や毎日のミーティングで状況や対応を話し合い、記録に残しています。会議に出席できなかった職員へはミーティングノートで確認するよう徹底を図っています。障害児保育に係わる研修にも積極的に参加し、知識を深めています。研修受講後は、職員会議やミーティングで報告を行い、全職員で知識の共有を図り、保育に生かしています。新しい制度や情報に関しては、園長から説明と回覧で周知を図っています。巡回相談記録、個別日誌、個別指導計画、個人面談記録等については事務室の鍵付きロッカーに保管し、閲覧場所を定め、管理を徹底しています。

●障害児保育のための環境整備では、園内はバリアフリーになっており、障害の特性に合わせて、表や図解等を活用して必要な工夫に努めています。よこはま港南地域療育センターの巡回訪問や医療機関、専門機関と連携し、指導・助言を得られる態勢を整え、職員は、専門機関主催の研修にも参加して研鑽しています。一人ひとりの状況を把握し、個別に指導計画を立て、会議等で情報を共有し、職員間で話し合える体制を確立しています。

●虐待については、虐待対応に関する研修を受講し、虐待の定義について職員会議で議題に挙げて啓発を図っています。また、栄区役所、区の保健師、児童相談所等の関連機関の連絡先や連携方法を分かり易く記載し、職員全体に周知しています。送迎時には挨拶や保護者との会話を通じて家庭での親子関係の把握を心がけ、子どものケガや様子を意識して察知するように努めています。虐待が疑われる家庭については慎重を期し、子どもや保護者の様子を記録に取り、継続的に見守りを行っています。身体の変化、傷等気になる点は、嘱託医に状態観察を依頼して適切な対応を行っています。虐待が明確になった場合や、心配や見守りが必要な場合には区役所、保健師、児童相談所に通告・相談し、丁寧かつ迅速な対応を心がけます。園長は、地域の児童虐待連絡会の委員であり、地域の情報を入手し、職員間で共有しています。

●食物アレルギー疾患のある子どもの除去食を提供する場合は、かかりつけ医の指示を基に生活管理指導票に沿って保護者と密に連携を図り、除去食を提供しています。職員には、食物アレルギー対応マニュアルに沿って必要な知識・情報を周知し、対応の徹底を図っています。給食では、色違いの専用食器を用い、名札を活用して個別配膳と複数職員での確認を徹底し、誤配膳、誤食がないようにしています。

●文化が異なる外国籍に係わる子ども、保護者への対応では、現在在園はありませんが、入園説明会・懇談会・行事等では外国語パンフレットを用意したり、必要に応じて通訳の活用を行い、お便りや給食便り等にはルビを振って対応します。外国籍の子どもについては、絵カード、図、写真等でコミュニケーション

ンを図り、宗教上の食文化への対応も保護者、担任、調理員、主任で集まり、献立の確認を行う体制を整えています。

評価分類 1 - 6	苦情解決体制
評価	

評価の理由（コメント）

- 保護者からの苦情などに関しては、「ほいくえんのしおり」（重要事項説明書）に目的、定義、体制を示し、苦情・相談の窓口担当者を明示して相談、意見を受け付けていることを知らせています。第三者委員の連絡先は事務所前に掲示し、入園説明会でも説明しています。要望や意見等を聞く機会としては、「ご意見・ご要望受付BOX」（意見箱）を廊下に設置し、年度末にはアンケートを実施しています。
- 苦情解決マニュアルを作成し、苦情受付担当者および苦情解決責任者は園長と定め、重要事項説明書にも記載しています。苦情・要望があった場合の対応は、苦情申し立て時に面談を設け、内容は記録に残し、マニュアルに沿って速やかに検討会議を行い、職員に周知し、対応を見直しています。

評価領域Ⅱ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅱ - 1	保育内容 [遊び]
評価	

評価の理由（コメント）

- 子どもが主体的に活動できるよう、玩具は子どもが自由に取り出して遊べるよう収納棚を年齢に合わせた高さに設置し、発達に応じた玩具（手作り玩具、絵本、ブロック、パズル、ミニチュアカー、ままごとセット等）を取り揃え、興味や季節に合わせて玩具の入れ替えを行っています。収納棚には玩具の絵カードを貼り、子どもが片づけられるように工夫しています。また、活動に応じて、保育室にコーナーを設定し、子どもが落ち着いて遊びに集中できる環境作りを行い、テラスやわくわくサロンを活用して個々に好きなことをして自由遊びの時間を十分に設けています。自由活動では、子どもの希望や意見を遊びに取り入れ、子どもの自由な発想から発信されたルールや決まりを採用する等、個々に遊び込める時間を十分に設けています。職員は、玩具の整理整頓等に工夫を行い、環境整備を行っています。
- 遊びが一斉活動に偏らないよう、自由遊びの時間とバランスよくデイリープログラムに組み込み、子どもの様子に合わせて時間や内容を変更する等、柔軟に対応しています。遊びが見つけれない子どもには保育士がかかわり、好きなことや興味ある遊具で個別配慮を行っています。

●異年齢保育では力を入れて取り組み、3歳～5歳児のための「異年齢保育年間指導計画」を立案し、行事や毎月の歌、リズム遊び、散歩、食育等、様々な活動を計画的に異年齢で実施しています。異年齢でのリズム遊びやムーブメント活動の機会を設け、他クラスとの交流の機会も多く取り入れています。幼児は乳児の手伝い等、自然にかかわり、保育士は丁寧に声かけを行うよう見守っています。各年齢の発達を踏まえた遊びを工夫しながら、年齢間の触れ合いを大切にしています。保育士と一緒に遊び見守る中で、子どもの興味や関心を知り、子どもの発想等を大切に、年齢に応じて友達との関わりや約束を守る等、社会性を身につけられるよう努めています。

●栽培や動植物の飼育については、「食物の収穫と生きものの命を大切にする心を」に沿って体験的に取り組み、「キエーロ」（土の力で生ごみを分解する生ごみ処理器）を活用した堆肥を用い、園庭の畑やプランターでホウレンソウ、白菜、サツマイモ、カボチャ、茄子、ブロッコリー等の野菜を本格的に栽培し、朝顔や向日葵は種まきから行い、水やりをして成長を観察し、収穫の喜びを体験しています。収穫した野菜は食育の調理につなげています。飼育では、メダカ、カタツムリ、カブト虫、蚕、ザリガニを飼育し、観察を通して命の尊さについて知る機会にしています。散歩や園外活動では、自然に触れ、近隣の方々と挨拶を交わし、地域の高齢者とも交流しています。

●毎月、歌やリズム遊びを通して、子どもたちはのびのびと表現を楽しんでいます。栄区の公立4園で取り組んでいる「ムーブメント」の活動では、スカーフやカラーロープ、パラシュート、形板、スペースマット等の教具を使い、自由に楽しく体を動かして表現しています。また、個別のお絵かき帳や、画材を自由に取り出してみんなで製作する等、様々な表現ができる機会を提供しています。子どもの自由に表現された作品は掲示し、保護者と共に子どもの成長を喜び合える機会にしています。

●子ども同士のケンカの場合は、保育士は危険のないよう見守り、子ども同士が原因を振り返るよう促しながら解決できるよう援助し、年齢や発達状況に応じて保育士が仲介するようにしています。また、保育士の思いで決めつけるのではなく、状況を見極め、互いの思いを受け止め、他児に不安を与えないよう配慮しています。

●健康増進の工夫では、戸外遊びと室内遊びの指導計画を作成し、天気の良い日は毎日散歩に出かけ、年齢に応じて散歩コースを選択し、子どもたちは体を存分に動かしています。園庭では鉄棒、縄跳び、かけっこ等を行い、体力作りを行っています。子どもの健康状態は、毎朝の視診や家庭の連絡により確認し、1歳、2歳児は個人ノートに記載し、把握しています。体調のすぐれない子どもは、室内遊びや安静に過ごせるよう配慮することもあります。また、個別の既往歴の一覧表を作成して全職員が対応できるようにしています。戸外遊びでは日除け帽子着用や個別に虫刺され予防のための長袖の着用に配慮し、遮光ネットを活用して紫外線対策を行っています。

評価分類Ⅱ－1

保育内容 [生活]

評価



評価の理由（コメント）

- 食事を豊かに楽しむ工夫として、乳・幼児の年間の食育計画、栽培計画を立案し、園庭で収穫した野菜等を給食に取り入れる等、子どもが楽しめるよう工夫しています。また、季節の旬の食材を取り入れて提供し、食事では、楽しい食事の雰囲気や心掛け、食事が楽しみとなるよう工夫しています。食事では子どもに食べられる量を確認し、食べる意欲、完食への喜びにつなげています。年齢に応じて食事の受け取り、配膳、片づけ等も職員と一緒にいき、食事一連の流れを学び、興味を持って楽しめるよう工夫しています。幼児クラスでは、その日の食材につながる絵本や写真を示して栄養について伝え、食事への関心が深まるよう工夫しています。
- 調理職員は、保育室を巡回して子ども一人ひとりの食事量や喫食状況、残食量を把握し、ミーティングで報告し、調理法、味付け、かわいい盛り付けの工夫等の反映につなげ、柔軟に対応しています。また、献立は横浜市公立保育園共通の2週間単位の2サイクルメニューで調理を行い、食材の切り方や盛り付けに変化をつけて提供しています。偏食については、無理強いをせず、その日の体調等を考慮しながら対応し、保育士、調理職員が保育室を巡回して「少し食べてみようか」等やさしく声かけを行い、興味を引き出せるよう促しています。園の人気メニューの1つに調理職員の手作りルーを使った特製カレーがあり、子ども、職員に好評を得ています。
- 子どもの食生活については、家庭と連携し、入園初日は食事の時間を保護者も一緒に過ごし、食事の子ども様子や給食内容の理解につなげています。献立表は事前に保護者へ配付し、献立のポイント（旬の食材、栄養、味付け、食べ方等）を掲載して情報提供を行い、給食のサンプルは毎日出入口に展示する等、園での食生活を家庭に知らせ、家庭での食育につなげています。
- 食器の工夫では、年齢に応じて形状や大きさを変え、種々の食具を揃え、子どもたちも器の大きさが変わることで自らの成長の自覚につなげています。スプーンや箸の使い方も個々の発達に合わせて指導をしています。
- 午睡については、安心して心地良く午睡ができるように室温、湿度に配慮しながら寝やすい場所を確保し、午睡中の呼吸や発汗の様子に気を付けています。SIDSの予防では、1歳児は10分間隔でブレスチェックを行い、表に記録し、他年齢児にも視診、触診をして見守りをしています。眠れない子ども、眠くない子どもには、強要せずに午睡前半の時間は休息とし、後半は静かに遊ぶよう促しています。
- トイレトレーニングでは、個人差があることを十分に理解し、一人ひとりの発達状況に応じて、保護者と連携を密にしながら進めています。また、強制や無理強い、失敗を叱ることや傷つけることがないように心得、子どもの羞恥心に配慮して対応し、シャワーを活用して気持ち良く過ごせるようにしています。
- 延長保育、短時間、標準時間での子どもの状態は、各クラスの伝達ノートにより引き継ぎ、職員間で共有し、夕方は日中の活動や子どもの体調面に応じて過ごし方に配慮しています。延長保育での捕食に関し

ては、家庭での夕飯に響かないよう保護者と相談の上、量を加減するよう配慮しています。

評価分類Ⅱ－２

安全管理 [健康管理]

評価



評価の理由（コメント）

- 健康管理は、年間保健計画を作成して保護者に周知しています。予防接種の接種状況や既往症歴等は保護者に確認し、児童健康台帳に記載して把握しています。毎朝、連絡帳や口頭で子どもの健康状態を確認し、職員間の引き継ぎはノートと口頭で伝達を行い、ミーティングでも共有しています。健康管理マニュアルを活用し、健康台帳、歯科・健康診査票、毎月の身体測定や予防接種等の他、4歳児で行う視聴覚検査等を記載して管理しています。また、看護師の巡回訪問（年2回）を活用し、手洗い・うがい指導や、健康に関する最新の情報や日々の様々な子どもケアのポイントについて具体的に教示を受けています。手洗い励行では手順を絵カードにしてわかりやすく掲示して実施しています。
- 年2回囑託医による健康診断・歯科健診を実施し、健診結果はファイルに分けて記録し、保護者にも知らせています。通院が必要な家庭については、結果・経過確認を行い、通院対応等のアドバイスをしています。
- 感染症等について、感染症に関するマニュアルを備え、登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応について、入園時に保護者に説明しています。感染症が発生した場合は、園内での感染症蔓延に注意し、注意喚起の掲示を行い、職員に対して必要な情報をミーティングやノートで速やかに周知しています。保育中に発症した場合は、速やかに保護者に連絡を行い、可能な限り別室で個別に対応しています。地域、最新の感染症情報は、行政や地域等から入手し、職員間で情報を共有し、掲示板、口頭で保護者にも周知しています。また、横浜市の「すくすく」を配付して保護者に健康についての関心につなげています。

評価分類Ⅱ－２

健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]

評価



評価の理由（コメント）

- 衛生管理マニュアルに沿って衛生管理を徹底しています。外部研修や情報等を参考にして年1回、全職員で衛生マニュアルの見直しを行っています。マニュアルにトイレや保育室、共用部等の清掃を定め、園内の清掃・衛生管理に努めています。また、横浜市の衛生管理のチェック表に基づいて給食指導訪問を受け、適切な衛生管理を行っています。ノロウイルス対策では嘔吐処理セットを各クラスに備え、職員は研

修で使い方を習得しています。

評価分類Ⅱ－2	健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]
評価	

評価の理由（コメント）

- 安全管理では、安全管理に関するマニュアルを備え、マニュアルの中に「遊具点検マニュアル」、「事故発生時対応マニュアル」を網羅し、全職員に周知しています。保育室や事務室の家具にストッパーを取り付け、備品等の落下、転倒防止を講じています。緊急時に備え、各クラスに避難経路図を掲示し、緊急時の職員体制を整え、事故や災害時に的確に対応できるようにしています。避難訓練は、避難訓練計画に基づき、様々な場面を想定して毎月1回実施し、所轄消防署や関連機関と連携を図っています。また、災害時の指定避難場所への確認訓練も行っています。職員は年2回、消防署の協力のもと、救命救急法を身に付け、緊急時に備えています。
- 事故やケガにおける対応について、保護者の連絡先を把握し、救急・医療機関の一覧表を備え、緊急時に対応できるようにしています。園内で事故やケガが発生した場合は、「事故・ケガ報告書」に記録し、ミーティング等で対応策を検討して共有を図り、再発防止に努めています。子どもの事故やケガについては、ケガの部位、軽重にかかわらず保育日誌に記録し、保護者に連絡および説明を行い、速やかな対応に努めています。ヒヤリハットでは、ケガの内容、場所、時間を詳細に記し、発生頻度の統計管理につなげ、危機管理を行っています。
- 外部からの侵入に対して、安全管理マニュアルに沿って様々な想定で訓練を実施しています。門は電子錠とインターホンを設置し、来訪者を確認の上、開錠しています。また、園内に緊急時の110番自動通報装置を設置し、直通で警察に連絡できる体制を整備しています。不審者情報は、関係機関とのネットワークから情報を入手し、必要に応じて保護者、地域に情報を提供しています。

評価分類Ⅱ－3	人権の尊重
評価	

評価の理由（コメント）

- 職員は、叱り方・呼び方等に威圧的な言葉遣いや、強制等を行わないよう心がけ、子どもの気持ちに寄り添い、穏やかにわかりやすく話すよう努め、日頃から職員間で確認し合っています。また、栄区主催の人権研修に参加し、子どもの人格を尊重する認識を深めています。子どもに注意する際は、否定するのではなく肯定の言葉を用い、叱る場合は他児に見えない場所で話すようにし、子どもの自尊心や羞恥心に配

慮しています。職員は、子どもの人権を尊重し、会議等で確認し合い、園内研修で子どもの対応や働きかけについて話し合い、声のトーンや言葉遣いに留意して保育にあたっています。子どもの呼び方は、家庭での呼び方を確認し、子ども本人の意向も尊重して馴染んだ呼び方で接しています。

●他児の視線を意識せずに過ごせる場所としてパーテーションや棚を活用して子どもが落ち着いて遊べるコーナーを設け、集中して遊べるよう配慮しています。必要に応じて子どもと1対1で話せる場所として、わくわくサロンや廊下のソファ、事務室の一角やテラスを活用し、子どもの「落ち着きの場所」としても活用しています。

●個人情報の取り扱いや守秘義務については、「個人情報取り扱いマニュアル」に基づいて管理しています。全職員（ボランティア、実習生含む）に、定義・目的について周知し、共通認識を図り、年1回、個人情報取り扱いに関する園内研修を実施して確認しています。各クラスの保育日誌や名簿類については、事務室の鍵のかかる書庫に保管し、閲覧場所を定めて管理しています。保護者には、入園時に個人情報の守秘義務について説明を行い、個人情報の取り扱い（肖像権等）の確認を行い、同意を得ています。また、個人情報の入った書類等は専用の袋により保護者へ手渡しする等、個人情報管理に留意しています。散歩時、子どもの帽子には個人マークを付け、バッジには個人名を記載せず、園名と園の電話番号のみを記載しています。

●性差に関する配慮では、全園児が平等に活動できるよう活動内容を考慮し、遊びや行事の役割、持ち物の区別、順番、グループ分けや整列も性別で区別することはしていません。子どもや保護者に対して、固定的に捉えた話し方や表現をしないように心得、カリキュラム会議等で子どもへの無意識な言葉かけについて振り返り、共通認識を図る体制を整えています。職員は、人権研修に参加してジェンダーフリーについて学び、園内研修でも共通認識を図っています。

評価分類Ⅱ－4

保護者との交流・連携

評価



評価の理由（コメント）

●保育方針・園目標は、入園説明会時に重要事項説明で行い、また、園行事やクラス懇談会時に園目標と併せて説明を行い、各保育室に理念、保育方針、園目標を掲示して理解を促しています。年度末には保護者にアンケートを実施し、意見や要望から行事のねらい、園目標が理解されているかを確認し、園運営に生かしています。

●園生活での様子や活動内容は、乳児は連絡帳、3歳児以上はクラスノートを活用し、写真を掲示してその日の様子を伝えています。保護者との連絡、伝達事項は、職員間で情報を共有して送迎時に伝える等きめ細かな対応に努めています。また、情報漏洩には十分留意しています。

- 個別相談・面談については、事務室、わくわくサロンを活用して行い、入口に談話中の表示を出し、プライバシーを確保できるよう配慮しています。相談を受けた場合は主に園長、主任で対応し、相談記録を作成し、必要に応じて継続的にフォローしています。また、横浜市に常駐する臨床心理士と相談できる体制があり、臨床心理士による研修に参加する等、カウンセリング技法等について知識を深めています。
- 園生活に関する情報は、定期的に園だよりを発行し、クラスの様子や今後の予定・行事のお知らせ、子どもの様子を知らせています。また、各保育室にカリキュラム、週案、献立表、クラスからのお知らせを掲示して情報を提供しています。1歳、2歳児については連絡帳でその日の様子を伝え、3歳～5歳児はクラスノートを設け、担任からクラスの様子を毎日伝えています。
- 保護者の保育参加・参観については、事前に次年度の年間行事予定表を配付し、保護者が予定を立てやすいように配慮しています。「1日保育士体験」事業として、保育参加の受け入れを行い、保育参観と共に1年を通して参加を募っています。
- 園では保護者会があります。保護者会とは主に園長、主任が引き継ぎ事項や今年度の予定を相談する等、連携を図り、円滑な園運営につなげています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価



評価の理由（コメント）

- 地域の子育て支援では、育児支援年間計画を作成し、育児相談、育児講座、園庭開放、交流保育（リズム遊び、誕生会、ランチ交流）、絵本の貸し出しを実施しています。園庭開放は、10:00～12:00の時間帯に行い、「わくわくサロン」は月曜～土曜日に開放しています。育児講座では、年1回、「食育講座」を実施しています。育児相談は、月曜～金曜日の9:00～16:00まで受け付けています。その他、栄区の保育園合同育児講座の実施や、地域子育て支援拠点等と連携し、地域に向けた子育て支援に尽力しています。
- 地域の子育て支援ニーズは、地域ケアプラザ、栄区の保育園合同育児講座「タッチケア」、「ムーブメント」での育児支援を通じて把握しています。また、栄区子ども家庭支援課、地域子育て支援拠点や区役所での合同育児講座で得た情報等を基に振り返り、課題を職員と話し合い、次年度につなげています。月1回、栄区公立園の園長会議で子育て支援会議を行い、栄区の子育て支援事業について報告およびニーズを把握しています。

評価分類Ⅲ－２**保育園の専門性を生かした相談機能**

評価

**評価の理由（コメント）**

- 栄区の子育て情報サイト、広報よこはま栄区版等に掲載して情報提供しています。相談事業については栄区の広報誌や、栄区のホームページに子育て相談の案内、交流保育の受け入れ、園の紹介を掲載し、育児相談に応じる旨を発信しています。また、散歩時にミニパンフレットを公園で遊んでいる地域の親子に配布し、情報を提供しています。園では、子育て支援のチラシを作成し、区役所、地域ケアプラザ、第三者委員、近隣の公田団地掲示板に掲示させてもらう等、情報提供に努めています。
- 園長は、各種連絡会に参加し、入手した情報は職員に周知しています。関係機関・団体等の連絡先リストを作成して電話帳にファイルし、職員間で共有しています。関係機関（栄区子ども家庭支援課・栄区役所保健センターの保健師・民生委員・主任児童委員・近隣小学校・地区センター・地域ケアプラザ・よこはま港南地域療育センター・児童相談所・警察・消防署等）との担当は主に園長とし、連携を図っています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営**評価分類Ⅳ－１****保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ**

評価

**評価の理由（コメント）**

- 地域への園の理解促進のための取り組みとして、園行事に自治会、地区内の小学校長、第三者委員、地域の親子、地域のシルバークラブの方等を招待しています。定期的に、地域のボランティアサークル団体「にんじんクラブ」、近隣の小学校、「お互いさまねっと いこい」と交流を深めています。園の行事（運動会、焼き芋等）では、近隣に事前に配付物でお知らせし、協力を仰いでいます。また、中学生の職業体験や実習生、地域のボランティアを受け入れて交流をしています。
- 子どもと地域との交流では、「お互いさまねっと いこい」、「うたごえ」に子どもたちが訪問し、歌や踊りを披露して高齢者の方々と交流を図っています。幼保小と密に連携し、近隣の保育園と交流をして情報交換を行い、小学校へは園日よりを届けに行く等、小学生と交流を楽しんでいます。小菅ヶ谷地域ケアプラザに訪問をして高齢者や地域の親子と交流を行っています。また、「たっちーらんど」（栄スポーツセンター）では、栄区の幼稚園・保育園の年長児が集まり、ムーブメントを通じて交流を行い、様々な遊びに挑戦する等、栄区で交流が行われています。

評価分類IV-2	サービス内容等に関する情報提供
評価	

評価の理由（コメント）

- 園の保育内容・保育方針等の情報提供は、栄区のホームページ、区の子育て支援情報サービスのホームページやパンフレット、横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」や「公立保育園横浜 inet」にも情報を掲載しています。栄区公立保育園4園と民間子育て支援センター園で、子育て通信「つぼみ」を発行し、地域子育て支援拠点「にこりんく」や区役所で配布し、地域の子育て親子が参加できる行事案内や子育てのヒント等の情報を地域に提供しています。乳児健診時には区役所で園のPRポスターを掲示して情報を周知しています。
- 利用希望者からの電話問い合わせ等については、丁寧な対応に努め、利用希望者に園見学を案内し、園の保育方針や利用条件等についてパンフレット、資料に基づいて対応できる体制を整えています。園見学は随時受け入れ、見学者にはパンフレットを手渡し、園の概要を説明して園内を案内しています。見学時に子育て支援事業の情報を伝え、事前に体験できるよう促しています。入園の契約等は栄区役所で案内しています。

評価分類IV-3	ボランティア・実習の受け入れ
評価	

評価の理由（コメント）

- ボランティアの受け入れ担当者を定め、マニュアルに沿って事前にオリエンテーションを行い、基本的な考え方や園の方針の説明を行い、理解を促しています。小中学生の職業体験や高校生のインターンシップを受け入れています。保護者へは園だよりやクラスノートで周知しています。ボランティア終了後は感想や意見をもらい、今後の参考にしています。
- 実習生の受け入れ担当者を決め、実習生受け入れのマニュアルに沿って事前にオリエンテーションを行っています。園の保育方針、保育内容、心構え、子どもへの接し方、保護者の対応と守秘義務、留意事項を説明し、守秘義務に関して誓約書を交わしています。保護者に対しては園だより、掲示にて周知して理解を促しています。実習では、実習生の計画、希望に応じて適切な実習プログラムを作成し、効果的な実習に努め、毎日終了時に職員との反省会を設け、実習終了日には全体の振り返りを行い、感想、気付き、意見交換を図り、成果に結び付けています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類Ⅴ－１ 職員の人材育成

評価



評価の理由（コメント）

- 園長は毎年、現状と環境背景等を捉え、重点項目、視点、期待する人材像を明確に示しています。保育士人材育成ビジョンや人事考課制度に則り、園長は年度初めに、職員個々の目標の共有を図り、年度末に達成状況の確認と反省を含めて面談を行い、課題解決と資質向上につなげています。職員は「目標共有シート」を使用して保育所運営に必要な各自の目標を設定し、具現化に向けて取り組んでいます。さらに、職員は「保育士職キャリアラダー」を活用し、自己評価を行います。園長は、職員個々の職位や必要なスキルを目指し、年間目標に沿った研修計画を立案し、個々のスキルアップに取り組んでいます。
- 正規職員、非常勤職員の研修体制については、園長と主任で職員個々の希望と必要性に応じて研修計画を作成し、定期的に職員会議後に園内研修を設けて非常勤職員も参加できるようにし、知識・技術の向上を図っています。人材育成に関しては、経験年数に応じた保育士分野人材育成ビジョン計画に沿い、研修を受講し、外部研修受講後は研修報告書を作成し、「一言報告会」を設け、職員間で共有を図り、報告書は回覧をして共有化を図っています。
- 園長は、「常に子どもにとって最善の保育を行う」心構えを職員会議等で伝え、全職員で共有認識を図っています。研修についても正規職員同様に参加の機会を設け、正規職員、非常勤職員と情報の共有および意見交換を図り、ミーティングノート、会議録の閲覧や資料の回覧により共有化を図っています。全職員でコミュニケーションを図りながら園の円滑な業務につなげています。

評価分類Ⅴ－２ 職員の技術の向上

評価



評価の理由（コメント）

- 計画的に職員個々のスキルの段階に応じた技術向上に取り組み、「キャリア自己分析表（保育士）」や保育所の自己評価を職位やキャリア別に評価できる仕組みを整備し、質の向上につなげています。外部からの技術指導では、よこはま港南地域療育センター、大学の教授等から評価やアドバイスを受け、外部の専門職による研修、各種研修に参加し、情報や知識を共有し、良いサービス事例等を会議等で報告し、活用しています。また、区内公立保育園の交換研修や、ネットワーク事業における実地研修を通して研鑽を図っています。園長不在時は主任が主体となって保育にあたり、円滑な業務に尽力しています。

●保育士は、計画および記録を通して保育の実践を振り返り、改善に向けた仕組みとして、文章化できるような計画や日誌の書式を定型化して工夫をしています。振り返りは、計画の意図した保育のねらいに合わせて行い、子どもの活動や結果だけでなく、子どもの育ちや意欲、取り組む過程に目を向けて実施しています。保育士の自己評価は、横浜市の「保育士職キャリアラダー、キャリア自己分析表（保育士）」の評価項目に基づいて総合的な自己評価を実施しています。保育所の自己評価は、利用者アンケートと全職員の振り返りを基に、4つのプロジェクト「①地域交流、②園庭環境、③室内環境、④育児支援」を構成して現状分析、取り組み手順を示し、改善に取り組んでいます。今年度、第三者評価を受審し、保育所全体の運営の向上に向けて取り組んでいきます。

評価分類V-3	職員のモチベーションの維持
評価	

評価の理由（コメント）

●総合的な人事管理では、園の理念、保育方針に基づいて人材育成計画を行い、人事基準は横浜市の公立園として明確に定められた基準に基づいて運用しています。横浜市では職場のコミュニケーションの円滑化を図り、職員一人ひとりの人材育成や能力開発につなげていくことを目的として人事考課制度を確立しています。人事考課、昇任、昇級等のあらゆる側面から人事給与制度の改革に取り組み、全職員にも周知しています。

●園長は、職員の面談時に評価内容のフィードバックを行い、成果を認め、次のステップに向けた努力や改善を要する能力について職員と共に考え、共通認識を図っています。より効果的な人材育成により昇進や昇給に反映させ、モチベーションアップにつなげています。各考課要素の評価は全職員に開示し、研修体制も確立しています。職員からの意見等は、会議の場だけでなく、いつでも園長や主任に改善提案や意見を述べるようにし、業務の改善点については、意見を出し合い、職員全員で考えて進めるようにしています。

●園長は、年度末に職員一人ひとりと面談し、満足度・要望等を把握しています。横浜市の人材育成、保育士分野人材育成ビジョンの職位に沿った期待水準を基に、職員の面談で年間目標の設定と年度途中で自己評価を実施し、年度末に達成状況の確認を行い、本人の意向、要望等を把握し、次年度に向けての課題を確認してスキルアップにつなげています。園長は、職員の経験・能力に応じて、自主的に判断できるような現場の職員に可能な限り権限を委譲し、責任を明確化し、やりがいにつなげています。

評価分類VI-1	経営における社会的責任
評価	

評価の理由（コメント）

- 保育所、職員として守るべき法・規範・倫理等の周知は、公務員としての横浜市職員服務規定や職員行動基準が定められ、全職員に周知しています。職員は名札内に携帯して常に確認ができるようにしています。コンプライアンスの規則、規定・要領を備え、園長は他施設の事故・不祥事等の事例について、職員にミーティングや会議で周知し、事例を通して啓発を行っています。また、資料を回覧し、職員間で情報共有を図り、不適切な対応がないよう喚起しています。定期的に不祥事防止や個人情報保護をテーマとした園内研修を行い、職員は規範について再確認し、日々の保育に生かしています。
- ゴミ減量化、リサイクル・省エネ促進と緑化推進では、横浜市職員行動基準に則り、園児や地域に向けたリサイクルに関する環境教育を実施し、土壌混合法やゴミ減量化の意識向上に取り組んでいます。環境への配慮の取り組みは「ほいくえんのしおり」に明記し、ゴミの減量化・リサイクル、省エネルギーを推進し、野菜くずや残飯を「キエーロ」（生ごみ処理機）に入れて堆肥を作り、生ゴミリサイクルを通してエコ教育を実施しています。また、園庭の木々の枝や葉は乾燥させてゴミの減量化を行い、園内の節電を心がけ、夏季、冬季に分けて温・湿度計に適正な目安を示して管理を実施しています。園庭で季節野菜、花を栽培し、緑化を促進しています。分別ゴミ箱を設置し、色分けをして子どもにわかりやすくし、コピーの裏紙使用等の励行を図り、環境教育への取り組みを行っています。職員は、オフィス3R 夢プラン策定と総合環境の研修に参加し、意識を高めています。

評価分類VI-2	施設長のリーダーシップ・主任の役割等
評価	

評価の理由（コメント）

- 理念・基本方針は明文化し、園の理念・保育目標を事務室、各保育室に掲示し、職員、保護者等が目に触れるようにしています。園長は、全職員に保育の理念「子どもの健やかな成長と幸せをねがって～すべての子どもたちが自分を「かけがえのない存在」と感じ、自信をもって生きていかれるように～」、保育目標である「まわりの思いを感じながら自分をおもいっきり表現できる子」を職員の保育姿勢の5項目とキャッチフレーズを記したカードを配付し、ミーティング時に唱和を行い、心構えを伝え、保育に反映されるよう指導力を発揮しています。

- 重要な意思決定にあたり、園長は、保護者説明会を開催し、懇談会、個人面談等を通じて保護者の意見を聞き、職員に対してはミーティングや職員会議で説明を行い、意見交換を図り、決定につなげています。園長は、保護者からの情報、意見を園長自身が受け止め、保護者と顔の見える関係を大切にしています。重要事項の決定では、乳・幼児会議、職員会議で話し合い、職員間で共通理解を図り、重要な変更の場合は保護者の理解が得られるよう丁寧に説明を行っています。園長は、主任、各クラス担任と連携を図り、日常の役割分担の他、プロジェクトを推進し、年間を通して保育課題の解決に尽力しています。
- スーパーバイズのできる主任クラスの育成は、横浜市の保育士分野人材育成ビジョン・保育士職キャリアダー等の育成プログラムを基に研修等に参加し、栄区の保育実践研修の計画に沿った「園長不在時代行保育士研修」に参加する等、研鑽を図っています。主任は、園内研修のリーダーとして研修計画、実施を担い、園長不在時は主体となって保育の実践にあたり、職員の業務状況を把握し、職員個々の精神面、体調等に配慮して必要に応じて応援体制の調整を行っています。主任は、園長不在時代行保育士として園長を助け、園運営の補助として役割を果たしています。主任は、職員一人ひとりの能力や経験に応じて助言や指導を行う等、園長の補佐としてまとめ役およびパイプ役となり、円滑な園運営に努めています。

評価分類VI-3	効率的な運営
評価	

評価の理由（コメント）

- 園の運営面における情報は、横浜市こども青少年局保育・教育人材課や栄区こども家庭支援課、園長会、関連機関、マスメディア等から収集し、横浜市公田保育園に必要な取り組みを職員と共に分析し、運営に生かしています。情報は職員全体に周知し、話し合い、園全体で取り組んでいます。子どものケガの情報や保護者からの意見は速やかに改善に向けて話し合い、保育所の自己評価や改善課題についても全職員で話し合い、より良い園作りに向けて取り組んでいます。

平成 30 年度 福祉サービス第三者評価 本人（園児） 調査結果報告書

横浜市公田保育園

調査日程	平成 30 年 12 月 12 日・14 日
保育観察	保育園を調査者 2 名で訪問し、全クラスの視察、生活環境の保育観察を行いました。生活の保育観察を行い、午睡の様子と保育観察を継続する中、園外活動での散歩に同行し、食事場面も同席して観察し、保育士のかかわり方、園児の様子の観察を行いました。各年齢については 1 日の保育の観察を通してそれぞれの特徴を捉えて記しています。

■1 歳～5 歳の子どもの様子

<室内遊び>

【1 歳児、2 歳児】

1 歳児（ひよこ）と 2 歳児（うさぎ）の保育室は隣同士でつながり、事務室の隣にあり、職員のすぐ目の届く位置にあります。乳児用トイレが近くにある部屋です。調査当日は保育室のエアコンの不具合により「わくわく室」を活用して 1 歳児と 2 歳児が合同で過ごしていました。「わくわく室」は園庭に面した園舎中央にあり、窓越しからの採光は良く、自然や四季の恵みが存分に味わえる環境です。調査者が入り口で遊んでいる子どもたちを見ていると、1 人の 2 歳児が興味深くそろりと近づいてきました。手をだして「タッチ」と声をかけると、小さな可愛い手でタッチをしてくれました。1 人の子がやり始めると他の子どもたちも遊びを止めて集まって来ました。楽しそうに何かを話しかけてくれます。きっと「おじいちゃんはだあれ」でしょうか。調査者が声をかけると笑顔でまた何かを話してくれます。楽しそうです。中には人見知りが始まった時期でもあり、保育士の背中に回って眺めている子どももいました。調査者の名札を見つけて小さな指を指して「ミッキーちゃん」、「ミッキー！」と言いながらうれしそうでした。子どもたちは笑顔が溢れ、安心感と安定した表情で、園生活をのびのびと過ごしています。

【1 歳～5 歳児】

<お誕生会>

調査日初日の朝、お誕生日会が行われました。対象児は 12 月生まれの子どもたち 3 名です。1 歳児、3 歳児、4 歳児の子どもです。お誕生会は全園児で開催し、お祝いをする子どもたちが多く集まり、保育士の声もよく聞き取れないくらい賑やかに盛り上がっています。お誕生会が始まり、保育士から主役一人ひとりのプロフィールが紹介され、みんなで大きな拍手をして祝います。誕生月の子どもたちにプレゼントが贈られ、はにかみながらもとてもうれしそうです。続いて、大きな「デコレーションケーキ」（本物そっくり紙粘土で作られた）の登場です。ローソクを歳の数だけ立てて火をつけ、音楽に合わせて誕生月の子どもが吹き消すイベントです。始めは 1 歳児の子どもが、2 歳になったローソク 2 本を「フーッ」と上手

に一度で吹き消し、みんなから拍手が送られます。4歳になった子どもはローソク4本、5歳を迎えた子どもは5本と、保育士のピアノに合わせてローソクを吹き消しました。全員から大きな拍手が送られ、みんなで3名の誕生日を喜び合いました。第1部のお誕生会が終了し、1歳児、2歳児は保育室に戻り、第2部が開催されます。準備を経て、第2部はシルクハットに黒マントを付けた魔術師「ガーハ」の登場です！変装をした保育士に子どもたちは、「あっ！」「羽賀先生だ～！」と盛り上がり、口々に「羽賀先生～！」と呼びますが、「いいえ！私は魔術師の「ガーハ」です！」と真面目に答え、子どもたちに笑いとおもしろい笑顔が広がります。魔術師の出し物は「カエルの手品」です。A4サイズの紙を折り畳み「手のひら」サイズにした中に小さなカエルが描かれています。ガーハが「小さなカエルにおまじないをかけて大きくします！」「ハイ！！」なんと！カエルが2倍の大きさに変わりました。そして、ガーハが声をかけるたびにカエルが大きくなっていきます。大きくなると今度は逆に、カエルが段々と小さくなっていくではありませんか。ガーハの一生懸命さが伝わりましたが、子どもたちにはネタバレしたようでしたが、とても楽しんでいました。次のガーハの出し物は、ハイテクのハンカチを使った手品です。「裏も表も何の仕掛けもありません」ハンカチをサッと振ると、次の瞬間ハンカチから花が出てきました。これは一寸びっくり！大きな拍手が送られます。ノートの手品では、白い紙に黒色の線が4本描かれており、ガーハが「ハイ！」と声をかけると、描かれていた線に色が付きました！これも大きな拍手！次々と子どもたちを飽きさせず、白いノートを取り出し、声をかけると中にキャンデーの絵が描かれています。今月が誕生日の保育士が前に呼ばれました。ガーハが声をかけると、ノートから保育士の所に本物のキャンデーが現れました！絵が本物のキャンデーに変わったので、保育士も子どもたちも「すご～い！」と大騒ぎです。子どもたちはザワザワと不思議がり、とてもびっくりする見事なガーハの手品でした。興奮さめやらぬところでしたが、「はい、これでおしまい！」と宣言してお誕生会が終了しました。子どもたち全員の気持ちを一つにさせるとてもいい企画でした。

【3歳児】

<食事>

食事は、3歳児（りす）の保育室で同席させていただきました。食事時間の途中でテーブルに着席し、今日は雨で外に出られなかったこともあり、子どもたちは元気を持って余しているのかとても元気いっぱいです。席に着いた途端、質問が始まり、「どこから来たの？」「何しに来たの？」「名前は何？」と次々に話しかけられます。こちらが答える前に、「わたし4歳なの」「私も～！」と、自分の紹介が始まり、テーブルに身を乗り出して話をしてくれます。話が多くなって食事が進まないのではと少し心配していると、ほとんどの子どもが完食していました。同じテーブルの子どもの中には、「嫌いなおかずがある」と言って残していましたが、保育士から無理強いすることはありません。食後は直ぐに歯磨きを行い、遊びながら歯磨きを行う子どもや、きちんと歯磨きをする子ども、中々始まらない子どももいます。歯ブラシ立てには2人分の歯ブラシが残っており、友達と遊んでいて歯磨きまで行きつけない様子です。「○○ちゃん歯を磨いて！」と保育士の促しでやっと磨き終え、今度は午睡への着替えが始まります。歯磨きが早く終わった子どもは既に着替え、子どもそれぞれにペースが違い、玩具で遊んだり、図鑑を見たりでしたが、すると、

保育士が絵本と椅子を出して座り、絵本を読む態勢に入ると、子どもたちがバラバラと集まってきて、保育士の読み聞かせに耳を傾けます。歯磨き、着替えは子ども本人の自主性を見守り、メリハリを持って午睡の導入に入る素晴らしい集合術でした。このまま子どもたちは絵本の続きを夢で見ようです。

【4歳児、5歳児】

<散歩>

お散歩に行く戸外活動に同行しました。天気は快晴ですが風が強く、12月の寒さを感じさせます。4歳、5歳児のグループは2時間コースで遠距離を歩きます。2歳児クラスは近くの公園にお散歩に出かけます。出かけるために整列していると、園庭で遊んでいた3歳児が2歳児の子どもたちと一緒に手をつないで出かけようとしています。3歳児は園庭遊びの予定ですが、2歳児の列が動き始めても手を放さず一緒にいようとしています。保育士が「○○くんは行かないのよ」と促しますが2歳児の手を離しません。昨日、食事時と同じテーブルの男の子でした。一緒にお散歩に行きたかったのでしょうか。さあ出発です。行き先は団地20号棟近くの公園に向かいます。そこは団地内の丘陵でも一番上になる場所にあり、道も行き止まりとなる所で交通の危険性もなく、子どもの遊び場に適した公園です。公園周囲には柵が設けられ、広場の中央に直径5メートル、高さ約50センチ程の円形の縁石に囲まれた花壇があり、花壇の周囲はコンクリートの歩道になり、歩道から周囲の柵まで芝生が敷かれた環境の良い広場です。子どもたちはコンクリートの歩道を駆けて廻り、追いかけてっこをして遊びます。芝で寝転がって遊ぶ子どもや、花壇の周囲のコンクリート歩道を走る子ども等、身体を動かして寒さも忘れて楽しそうです。転ぶ子どももいましたが、保育士に絆創膏を貼ってもらうとすぐに泣き止み、また遊びに夢中です。風が強く、帽子を飛ばされながらも走り廻り、花壇の縁に上って歩いている子どももあり、保育士から「危ないよ～」の注意を受けますが、段々慣れてくると縁石の上をバランス良く歩き、2歳児の対応力にびっくりします。1人の子どもが調査者に「カン・カン・カンして！」と言って自分の胸の前に手を出して遮る仕草をします。どうやら電車ごっこで遮断機の役目を要求しているようでした。花壇の歩道では左右の廻り方を急に変えて逆走する子ども同士が正面衝突し、ぶつかった子ども同士が「ケガしなかった？」、「うん、大丈夫だよ！」と互いに気遣い、注意し合っていました。他の場所では、保育士と2～3人の子どもがかくれんぼと鬼ごっこが混じったような遊びを始めました。子どもが花壇の陰に隠れると、「見〜つけた！」と言って、今度は追いかけて行き、笑顔をいっぱい一生懸命走って逃げます。とても楽しそうです。公園では造りを生かした色々な遊びを行い、思い思いに遊びを楽しんでいました。園への帰り道では、調査者の後ろを歩く子どもが手を伸ばしてつなぎに来て、横の子どもと手をつなぎながら後ろの子どもの手もつなぎ、体がねじれる状態でとうとう園の前までその格好で帰って来ました。年期の入った調査者にはプール公園が近くて安堵しましたが、小さな手を伸ばしてくる子どもの気持ちを考えると手を離せません。ここから保育室に入るまでは、靴を脱いで、靴下を脱ぎ、帽子を取って、上着を脱ぎ、脱いだ自分の靴を片づけ、靴下、帽子、上着を箱に入れ、次に足を洗って、拭き終わったらやっと保育室に入り、今日の散歩が終わります。この一連の流れの中で、子どもたちは靴のまますのこに上がる子どもや、上着を脱いだり着たりして遊んでいる子どももいます。どうやらファスナーを留めたり、外したりできるのが楽しいようです。みんなが保育室に入っても

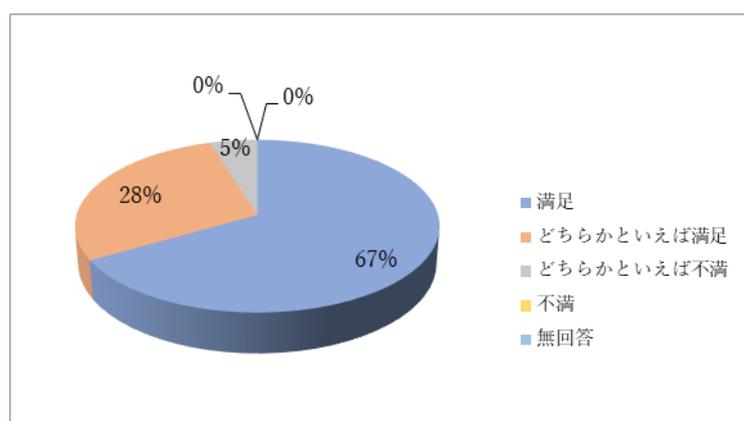
まだ靴を箱に片づけず、ファスナーのやりとりで大喜びをしています。「お昼になるから早く入ろうね。」
と言うと、駆けて行きました。横浜市公田保育園の子どもたちは本当に元気いっぱい、保育士が見守る
中、感情を素直に表現し、笑い声の絶えない子どもたちです。

【横浜市 公田保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	30年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	利用者家族 配付世帯数（世帯数 39）
有効回答数	21 世帯
世帯総数に対する回答者割合（%）	53%

1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
8 世帯	8 世帯	1 世帯	3 世帯	1 世帯

* 回答があった利用者満足度の内訳（%）



●利用者アンケートの特徴として、日常の保育内容の「遊び」についての項目が、総体的に『満足』が高く、『満足』と『どちらかといえば満足』を合わせて（以下、「ほぼ満足」と言う）見ると、「ほぼ満足」において 100%を得ている項目が多くあります。『満足』が高い項目では、「子どもが戸外遊びを十分しているか」について、「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動」について、「お父さんが給食を楽しんでいるか」について、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか」についての 4 項目では、『満足』は 81%を示しています。「ほぼ満足」とする高い項目では、「見学の受け入れについて」、「クラスの活動や遊びについて」、「子どもが戸外遊びを十分しているかについて」、「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」、「遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持てているかについて」、「遊びを通じたお子さんの健康作りへの取り組みについて」、「給食の献立内容について」、「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについて」、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか等について」、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」の 11 項目では、「ほぼ満足」が 100%であり、「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」は、「ほぼ満足」は 96%を得ています。その他の項目についても、「ほぼ満足」に関しては高い評価を得ています。

●アンケートの自由記述からは、各年齢の保護者から「先生（保育士）方の雰囲気も良く、子どもも楽しく過ごせている」、「いろいろな事に触れて学び、楽しんでいます」、「子どもがのびのびと過ごしていて、安心して預けられます」、「先生（保育士）方が、子どもを良く見てくれる」、「毎日、おいしい給食を作ってもらい感謝している」、「自然の中で、子どもたちがのびのびと遊べる」等の多くの喜びの意見が挙がっています。

●『不満』および、『満足』が低い項目では、中でも「費用やきまりに関する説明について」、「施設設備について」、「園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供について」、「お子さんに関する重要な情報の連絡体制について」の4項目が、『不満』5%を示しています。『満足』として低い項目では、「開所時間内であれば柔軟に対応してくれる等、残業等で迎えが遅くなる場合の対応について」が満足33%、どちらかといえば満足43%となっています。

●アンケートの主な意見では、「細かい事についてきちんと説明してほしい」、「場所が坂の上なので、民間移管後は駐車場の確保をお願いします」、「送り迎えの際、バタバタしていると対応があまり良くないと感じる時もあります」等の意見が挙がっています。保護者からの意見、要望等について受け止め、日々の振り返りと見直しを図る機会を設け、利用者の理解や協力につなげられるよう、継続してより良い園作りの取り組みを期待いたしております。

●保育園の基本理念や基本方針については、よく知っているが14%、まあ知っている67%、どちらともいえない10%、あまり知らない10%という結果になっています。しかし、それらの賛同については、賛同できる57%、まあ賛同できる19%、どちらともいえない5%、無回答19%にて、76%がほぼ賛同を示しています。保育の根幹なる理念、保育方針は機会あるごとに周知を図られていますが、より一層の周知・理解を促す工夫が期待されます。

●総合的に、『満足』は67%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は28%、『どちらかといえば不満』5%、『不満、無回答』は0%にて、サービスの提供について、95%が「ほぼ満足」していると捉えることができます。

利用者調査項目（アンケート）

横浜市公田保育園

【保育園の基本理念や基本方針について】

※上段%、下段人数で示しています

問 1

利用者調査項目		よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
1	あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	14%	67%	10%	10%	0%	0%
		3人	14人	2人	2人	0人	0人
		賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
2	あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	57%	19%	5%	0%	0%	19%
		12人	4人	1人	0人	0人	4人

【保育園のサービス内容について】

問 2 入園する時の状況について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
3	見学の受け入れについては	67%	33%	0%	0%	0%	0%
		14人	7人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
4	入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	48%	43%	5%	0%	5%	0%
		10人	9人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》		・転居による途中入園の為、なかった。					
5	園の目標や方針についての説明には	57%	38%	5%	0%	0%	0%
		12人	8人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
6	入園時の面接などで、お子さんの様子や育成歴などを聞く対応については	57%	33%	5%	0%	5%	0%
		12人	7人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》		・面積はなかったと思います。					

7	保育園での1日の過ごし方についての説明には	62%	29%	5%	0%	5%	0%
		13人	6人	1人	0人	1人	0人
《その他意見》		・なかった。					
8	費用やきまりに関する説明については（入園後に 食い違いがなかったかを含めて）	52%	43%	0%	5%	0%	0%
		11人	9人	0人	1人	0人	0人
《その他意見》							

問3 保育園に関する年間の計画について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
9	年間の保育や行事についての説明は	57%	24%	19%	0%	0%	0%
		12人	5人	4人	0人	0人	0人
《その他意見》							
10	年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされ ているかについては	43%	38%	10%	0%	10%	0%
		9人	8人	2人	0人	2人	0人
《その他意見》		・入園したばかりの為、わかりません。 ・わからない。					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
11	クラスの活動や遊びについては (お子様が満足しているかどうか)	76%	24%	0%	0%	0%	0%
		16人	5人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
12	子どもが戸外遊びを十分しているかについては	81%	19%	0%	0%	0%	0%
		17人	4人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							

13	園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてある、年齢にふさわしいかなど)	71%	24%	5%	0%	0%	0%
		15人	5人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
14	自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	81%	19%	0%	0%	0%	0%
		17人	4人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
15	遊びを通じた友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	71%	29%	0%	0%	0%	0%
		15人	6人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
16	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	67%	33%	0%	0%	0%	0%
		14人	7人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							

「生活」について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
17	給食の献立内容については	76%	24%	0%	0%	0%	0%
		16人	5人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
18	お子さんが給食を楽しんでいるかについては	81%	14%	5%	0%	0%	0%
		17人	3人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
19	基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	71%	29%	0%	0%	0%	0%
		15人	6人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							

20	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	81%	19%	0%	0%	0%	0%
		17人	4人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							
21	おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	57%	24%	10%	0%	10%	0%
		12人	5人	2人	0人	2人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・まだトレーニングをしていません。 ・各々というより、全体で進めるようです。 ・おむつがはずれてから入園した。 					
22	お子さんの体調への気配りについては	71%	24%	5%	0%	0%	0%
		15人	5人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
23	保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62%	24%	10%	0%	5%	0%
		13人	5人	2人	0人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・入園したばかりの為、わかりません。 					

問5 保育園の快適さや安全対策については

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
24	施設設備については	43%	38%	14%	5%	0%	0%
		9人	8人	3人	1人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場がほしい。 					
25	お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているかについては	62%	29%	10%	0%	0%	0%
		13人	6人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							
26	外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	48%	52%	0%	0%	0%	0%
		10人	11人	0人	0人	0人	0人
《その他意見》							

27	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	62%	33%	5%	0%	0%	0%
		13人	7人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							

問6 園と保護者との連携・交流について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
28	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	48%	48%	5%	0%	0%	0%
		10人	10人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
29	園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	62%	24%	10%	5%	0%	0%
		13人	5人	2人	1人	0人	0人
《その他意見》							
30	園の行事の開催日や時間帯への配慮については	57%	38%	5%	0%	0%	0%
		12人	8人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
31	送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	38%	48%	10%	5%	0%	0%
		8人	10人	2人	1人	0人	0人
《その他意見》							
32	お子さんの関する重要な情報の連絡体制については	48%	38%	10%	5%	0%	0%
		10人	8人	2人	1人	0人	0人
《その他意見》							
33	保護者からの相談事への対応には	52%	38%	10%	0%	0%	0%
		11人	8人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							

34	開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、 残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	33%	43%	14%	0%	10%	0%
		7人	9人	3人	0人	2人	0人
《その他意見》		・わかりません。 ・あまり遅くなったりしたことがないので、わからない。					

問7 職員の対応について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
35	あなたのお子さんは大切にされているかについては	62%	24%	10%	5%	0%	0%
		13人	5人	2人	1人	0人	0人
《その他意見》							
36	あなたのお子さんが保育園生活を楽しまれているかについては	67%	24%	10%	0%	0%	0%
		14人	5人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							
37	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	62%	33%	0%	0%	5%	0%
		13人	7人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》		・わかりません。					
38	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	57%	38%	5%	0%	0%	0%
		12人	8人	1人	0人	0人	0人
《その他意見》							
39	意見や要望への対応については	57%	33%	10%	0%	0%	0%
		12人	7人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							

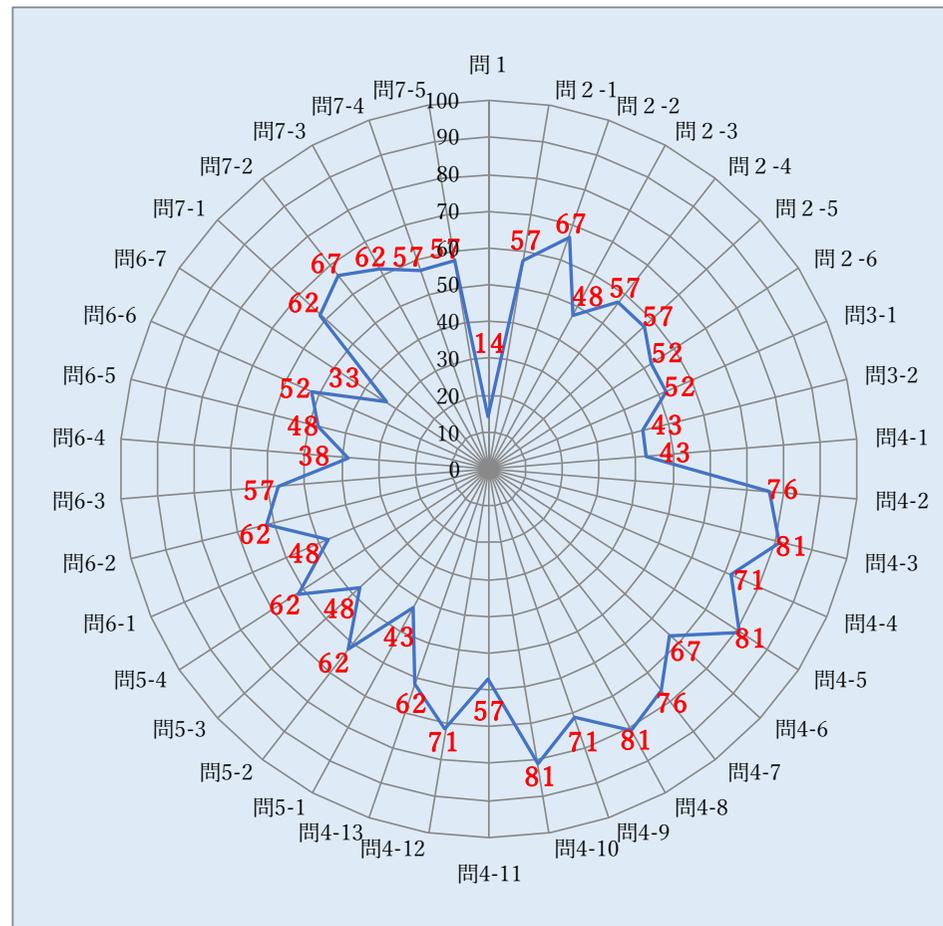
問8 保育園の総合評価

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	無回答	
40	総合満足度は	67%	29%	5%	0%	0%	
		14人	6人	1人	0人	0人	
《その他意見》							

利用者家族アンケート調査結果（設問別「満足度」総合）

（注）レーダー数値は設問別「満足度」回答率（小数点以下は四捨五入）

調査対象園舎： 横浜市 公田保育園 横浜市栄区公田町 740	
回答世帯数：39 世帯中 21 世帯 <1 歳児（8 名）、2 歳児（8 名）、3 歳児（1 名）、4 歳児（3 名）、5 歳児（1 名）>	
定員： 69 名	調査期間： 2018/08/01 ~ 2018/12/14



事業者コメント

施設名： 横浜市公田保育園

<評価に取り組んだ感想>

最初に来園して下さった時、「ちょっとした定期試験だと思ってお受けください。成績表を見てまた次の段階へ進むきっかけにしてください」といった趣旨のことを伺ったように思います。「第三者評価」という言葉に非常に身構えていましたが、これで全てが判断されるわけではなく、またこれが終わりでもないということをまず気付かされたことを思い出します。

受審に向けての園全体での取組はとても意義がありました。理念や園目標のとらえ方をはじめ、子どもの人権や育ちに関わる部分、また保育園の在り方などでの意識の共有が図れたことが一番の収穫だったと思います。また、保育について語り合う中で職員間の相互理解にもつながりました。

そして日々の保育や、また今回の評価受審に向けて改善した点などが高く評価され、私たちの努力を認めていただけたのを嬉しく思いました。

保護者には行事の時にお話しさせていただいたり、園だよりも何度か掲載しましたが、アンケートの回収率が芳しくなかったのが少々残念と言えば残念でした。安心してお子さんを預けてくださっている証拠なのかもしれませんが、園としての発信不足も反省しました。今後この結果をもとにまた職員一丸となって保育園運営にあたりながら、保護者の皆様にも身近な保育園・関心の持てる保育活動となるようにしたいと思います。

<評価後取り組んだ事として>

1. 「ヒヤリハット記録」については記載の方法をあらため、クラスごとに統計を取りやすい形式に変更しました。
2. 保育理念と園目標については唱和を行うようにし、今まで以上に日々意識できるよう改善しました

今後は、今回の報告書を読み合わせ再確認していきたいと考えています。